

学習活動

教科別の指導 国語「動物の名前を覚えよう」

動物を題材にした、絵本の読み聞かせ、鳴き声クイズ、ひらがなの学習、文字とイラストのマッチング等一部の児童が「馬の里に行こう」という生活単元学習(校外学習)があることから、動物をテーマにした題材とした。児童は小学部2～5年生までの4名である。

活用の目的

- 動物をイメージするために動画の閲覧や鳴き声の再生ができる iPad のアプリケーションを使用する。
- ひらがなの上達をめざし、ディスプレイに文字を書き込める iPad のアプリケーションを使用する。

活用の実際と工夫

- 動物の鳴き声や動いている様子を見せることで、写真やイラストでしか見たことのない動物のイメージがもてるようにする。
- なぞり書きに加え、単語の再生機能もあり**視覚・聴覚のどちらからも文字を捉えることができる** iPad のアプリケーション「かなもじ」を使用する。
- 児童の集中力を持続させるため、「読み聞かせ」「イラスト同士・イラストと文字のマッチング」「鳴き声クイズ」「ひらがなの練習(iPad、プリント)」といった複数の学習を用意する。



iPad 用アプリケーション「動く！動物図鑑」

2種類の動画や鳴き声が児童の興味をひく。象や亀を見ることができる。

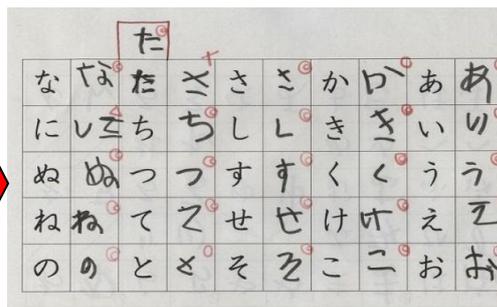
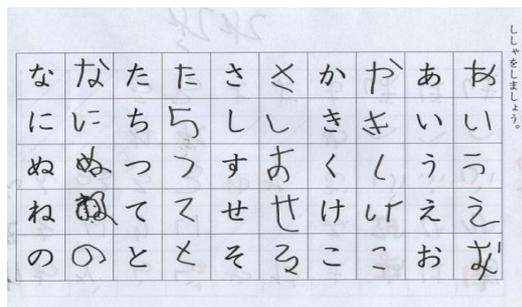
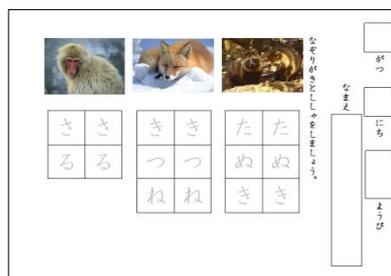


iPad 用アプリケーション「Animal Sound」

鳴き声を聞いて動物の名前を答えたり、カードで選んだりする。発声のまねをするのが楽しそうであった。



イラスト同士、イラストと文字カードなど、児童の課題に応じて教材を用意した。一斉指導の時間とそれぞれの課題に取り組む時間を設けて、学習の場面分けを行った。



iPad 用アプリケーション「かなもじ」

iPad の操作を覚えた児童は、自分でページを切り替えて次々と字の練習をしていた。その後、プリントの課題に取り組む。iPad は児童の関心を集め、意欲的に取り組んでいた。

(下2枚)ある児童の9月と12月のひらがなの視写のプリント。いくつかの文字に変化が見られる。

活用の効果 ○効果 ●課題

- 今まで CD や映像の再生機器を用意しなければいけなかった場面でも、タブレット PC1台で「動物が動く姿」「鳴き声」を視聴できる点が良かった。
- 国語の指導で ICT が生きるのは「聞くこと」「読む(見る)こと」の領域であるが、「書くこと」まで学習できるのがタブレット PC の強みである。書いたものを記録できる点にも注目したい。
- 児童の視写のプリントを掲載したが、「タブレット PC の活用によって上達した」とは言い難い。様々な生活経験や学校内外での学習の積み重ねにより児童の力は伸びていったと考えられるからである。それでも興味をひき、主体的に取り組める教材であることの魅力は大きい。
- 生活単元学習と結びつけた教科別の指導は難しい…と感じた単元であった。